

# 彼岸花

伊丹三樹彦

絵／石阪春生

紺青の 天が下なる 彼岸花

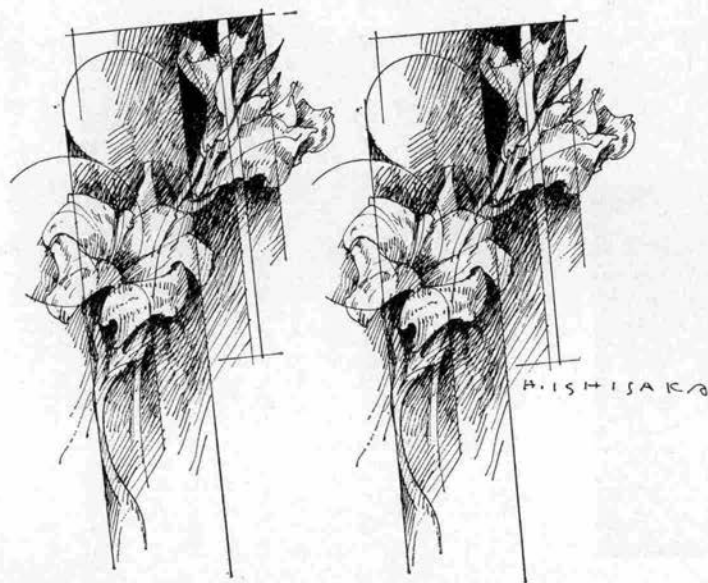
一夜にて

火の手のあがる 彼岸花

明らかに泣く背の女 彼岸花

彼岸花 迷い鷗に火の海ぞ

天道のあと 月道の 彼岸花



## 随想 二題

### コスモスは 出合いの花

荒木 幸史

△画家▽



「神戸で個展をしていただきませんか」

最初にやさしく声をかけてくださったのは、ファミリア副社長の坂野惇子さんでした。七年前、東京の松屋銀座の山中鎭社長のご紹介でお会いしてお誘いを受けたのでした。

それが、私と神戸のおつきあいの始まりでした。私は、長い間、神戸に妙に懐かしいものを感じていました。それは、私の住む佐世保の港町にどこか似ているからでした。町を歩くと外国の人と出合い、潮風を含んだ澄みきった空気

が肌に心地良くさし、海に向かって開かれた町はどこか遠いところに誘ってくれるのです。

六年前、最初の個展を神戸ファミリアで開かせていただいたから私の神戸参りが始まりました。その間、実に多くの人との出合いがあり、私は神戸をますます好きになっていったのです。関西日米婦人会の方々からは、ポートピアホテルのアートショーに誘いを受けましたし、須磨区連合婦人会の方々からは、区民の祭典に呼んでいただきました。区の花がコスモスだと伺ったときには、何か縁さえ感じたものです。

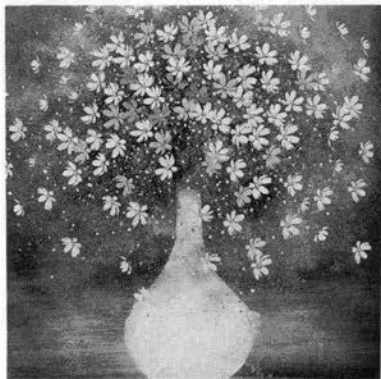
思えば十七年前、宮崎の生駒高原でコスモスの群生との出合いからすべてが始まったような気がします。画家を志しながら、くじけそうになった時に出会ったコスモスの花は朝日に輝き、私に逞しい生命力を与えてくれたのです。コスモスは描けば描くほど私を魅了してやみません。一見、か細い姿ながら、雨や風にも負けないで大地にしっかりと根をおろし、天空に向かって伸びていくさまは、なんとも力強いものを感じます。

この花との出合いがなかったら多くのすばらしい人との出合いはなかったのではないのでしょうか。それらの人々は実に心やさしく、自分の生き方をしっかりと持って

いる方々ばかりでした。それはまるでコスモスの花のように、決して華美でなく淡々として生命力に溢れているのです。私は、彼らと出会うたびに創作意欲をかきたたられ、一人キャンパスに向かうのでした。

そんな時、心に想うことは、もし花曜日という曜日があるならば毎日が花曜日であって欲しい。そうして私だけでなく多くの人々の心を潤して欲しい。ギリシア語で宇宙という意味のコスモスは、私に無限の世界を開かせてくれます。コスモスを通して知り合った多くの人々は、これからも途切れることなく広がっていきそうです。

「ここからは毎日が花曜日でありたい」。この想いを大切にし、さらにコスモスの絵を描き続けていきたいと思えます。





# 「馬鹿ン巢」

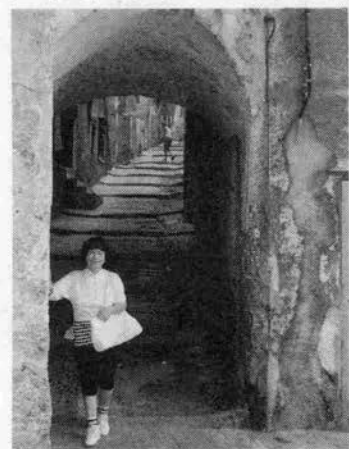
——一九九一年夢——

三浦 照子

▲作家▼



この度のヨーロッパの旅は諦めていたエアチケットが手に入り4日後の慌ただしい出発であった。日程は前半をイタリアのラベンナ Scia palazzomajisi のイタリア語初級クラスで、一日2過程の授業。午後はラベンナの工房やピナコティカ、教会をまわった。アドリア海に面するこの静かな中世の小都市が好きで幾度か訪れているが、パカンスの季節はヨーロッパの様々な人種が街にあふれ、すっかり印象が変わっている。それでもモザイクの中のオクタピアス帝もテオドラ妃も、千年変わらぬ憂愁に満ちた面差しで観覧者を見下ろし、ローマ時代の洗礼堂のひんやりした空気は外部の熱気をさえぎって快い。厚い石造りの壁がエアコンの役目を果たしているのであろう。ダンテの墓のある公園では、鳩の群れが木陰の芝生にうずくまってまどろんでいて人が傍らを通っても気にする気配はない。授業のほうは簡単な内容にも係わらず、「テルーコ」と指名される度に跳び上がったり怯えたり



ベェンティミリアにて。

の美少女の三人のクラスでいつも劣等生であった。このガキどもに負けてたまるか、と朝5時から起きて予習復習のまるで予備校生なみの一日である。それでもフェアラゴースト(8月の祭り)に続く連休には、スケッチブックをさげてリミニの海岸にいった。渚はびっしりパラソルが立ち並び、膚を焼く人々であふれ遙か遠く海しかみえなかったが、美しい肢体を僅かな布で被った、殆どヌードの人の群れで、モデルには事欠かなかった。ヨーロッパの人々は汽車の中でも陽の当たる席を選んで座るが、なんで赤剥けになるほど日焼けしなければいけないのかと思う。その上、イタリアでは自動車もホテルも冷房がない。冷房付きの高いホテルに代わったが、たちまち風邪を引いてしまった。陽が沈むと熱気が去り、冷房のない部屋でも結構涼しくなる。そよかぜの吹く石畳の上のカフェのテーブルは夜半まで人々のざわめきが絶え

ない。家々の冷房で夜の街の温度が上昇する日本を思い出した。

休みの後半はニースのダニエラの家で過ごした。夫婦と息子二人の食卓は家族がフランス語、私のために夫婦と長男がイタリア語、夫と息子たちが英語、次男が時々スペイン語と誠に賑やかである。

リビエラの夏も、春に訪れた時とは様相が変わり、多国籍の人が溢れていた。モナコ、モントン国境を越えてベェンティミリア、ポルティゲラ、サンレモと、アウレリア街道の車の旅は小さなローバでダニエラの運転で続いた。息子たちはカンヌ、パンス、アンテイブスへと伴ってくれたが、絵も描き、コレクターでもあるダニエラの配慮で、ギャラリーや美術館に十分な時間をとってくれたので美しい石造りの小さな中世の街とともに、コクトウ、ピカソ、シャガールはじめ、点在する多くの美術館を楽しむことができた。特にパンスの街の一面は細い路を挟んで左右に画廊があり、個展が開かれたり思いも掛けぬ著名作家の作品が展示してあったりで、時の経つのを忘れた。ダニエラは私の滞在が終わる夜、ホテル・ネグレスコに招待してくれた。リビエラ最高でしょうかと遠慮すると夫のカードがある、心配無用と景気良くシャンパンを空けた。おかげで私の頭もすっかりパカンス馬鹿ン巢になってしまった。

# 甲斐をかいま見る

## ——首都圏のなかの甲府——

米花 稔

△神戸大学名誉教授・福山大学教授▽

この六月山梨学院大学でのさる学会で甲府を訪ねた。私事ながら都道府県庁所在地で唯一初めてのもちなので、統一論題報告があたつていて二泊三日も思うにまかせない寸暇にまちを歩いた。人口二〇万静かながら相当の多様さを特徴とするまちという第一印象。

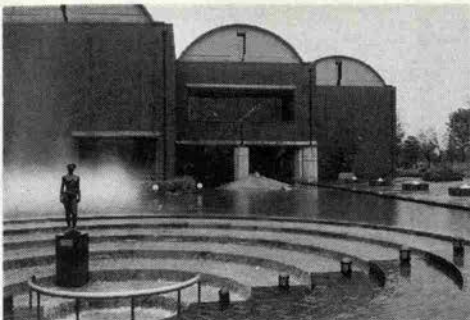
梅雨期とて富士山麓にきて全く富士を見ず、武田三代とりわけ信玄ゆかりの社寺の多いのも時間なく割愛、車で走るとまわりにぶどう園を見つワインの施設まで足をのばせず、山梨の水晶の記憶からやっと駅近くの宝石博物館をみる。この水晶の産出は明治中期が最盛期で今は見ず、しかしその加工技術が資産となり、研磨宝飾

はドイツと並ぶ世界屈指、業者による甲府宝石貴金属センター協同組合昭和五〇年開館のこの博物館で、多様な珍しい原石、研磨された宝石類の展示が輝いていた。かつてブラジル中部でのこの種の施設を見たのを想起したが、そういえばここで加工している水晶などブラジルからの輸入が多いときいた。

ついでミレーで有名な県立美術館のある芸術の森公園へ急ぐ。県一〇〇年記念昭和五三年開館ときく。常設展でミレーの「種をまく人」「落穂拾い」などみて、おりからの特別展にヨーロッパ巡回記念「現代の屏風絵」をみたが、あわせて「富士百景写真展」で富士を見る。団体バスで多数の人々の来観が印象的であった。同じ公園内に平成元年開館「県立文学館」をみる。山梨ゆかりの芥川龍之介、飯田蛇笏、樋口一葉、太宰治など多くの人の資料展示に、当然ながら小林一三氏のそれに興をひかれた。飛躍するが筆者の故郷姫路にもことし市立姫路文学館が開館した。市立美術館、県立歴史博物館と公園中心に展開しているし、毎週通っている福山でもお城の側に県立歴史博物館、市立美術館があ

る。まちづくりのひとつのスタイルの定着をみる感。

ここ甲府にはもうひとつの顔がある。このまちは初めてながら、九年前県下富士吉田近く、いわゆるFA工場の早い典型として当時の富士通ファナック（今ファナック）本社工場を訪ねている。今回このFAなどに用いるロボット電子部品をつくる松下電器産業の精機事業部甲府工場を学会第一日見学の機会を得た。ここでも多種少量生産の自動化をみる。甲府中心にいわたるテクノポリスは、自然と技術の融合する内陸頭脳都市づくりとして、国立山梨大学などをふくめて、産業の最先端部分を受けもち、さすが首都圏の一部らしい。ただ地元新聞は地元中小企業がこれに対応する研究開発になお消極的という悩みを訴えている。東京からいま一時間半、そしてリニアエクスプレスの走るといふ二一世紀のこのまちの変貌はどのようであるかと思いを走らせる。駆け足の影響であった。



山梨県立文学館

山梨宝石博物館





女性専用24時間テブ案内 06(312)4048

**Q** 毎朝、アイラインをひくのが大の苦手。先日何度度も失敗したあげく、3mm位の太いラインになってしまいました。時間もなかったもので、そのまま出社したら、上司に注意されてしまい、「もう化粧なんかするもんか」って心に決め、それ以来アイラインはひいていません。小さい目を大きく見せる方法は、やっぱり手術しかないのでしょうか？  
(OL22才)



**メイク嫌いな女子集まれ!**

**A** メイクの中で、アイラインをひくのが、一番むずかしいとされているようです。しかも一重まぶたの人の場合は、「二重ならメイクのしがいもあるのに」と考えているのも事実です。実際、当院でも二重まぶたの手術が一番多いですね。次に鼻の手術。といっても、おやみに高くするのではなく、鼻筋を通すだけとお考え下さい。患者さん全ての方が「手術した事が分からないように」と言いますが、ご心配いりません。「メイクかえた？」と聞かれる程とても自然な仕上がりです。この秋、やはりナチュラルなメイクが一番さわやかかと思われれます。費用は二重まぶたが12万円、鼻が23万円。尚、相談は無料で行っておりますので、お気軽にご来院ください。

**品川美容外科**

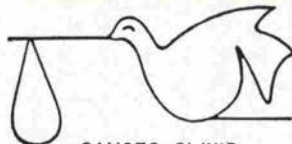
神戸 078(331)7183

神戸市中央区三宮町1-3-3

小林ビル6階

男性専用 078(331)4102

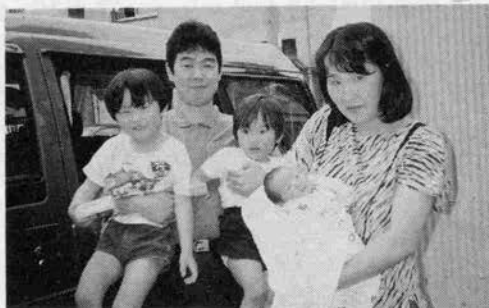
- 東京
- 大阪
- 名古屋
- 福岡
- 鹿児島
- 広島
- 京都
- 横浜
- 千葉
- 仙台
- 札幌



SAMOTO CLINIC

佐本  
産科

ママといっしょに



赤ちゃん: 板倉 拓<sup>たく</sup>くん (平成3年6月19日生)

マ マ: 容子<sup>しょう</sup>さん お兄ちゃん: 尚<sup>とも</sup>くん、智<sup>とも</sup>くん

「お兄ちゃん達と早く遊べるようになってほしいです。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15  
☎575-1024(病室☎576-9639)

市バス上沢4 停南スグ



□ エッセイ

# わが家の 珍客

青木はるみ（詩人）

カット・杉浦祐二

わが家の東隣りは、幸いにもまだ空地である。草が繁茂しているさまを見て通りがかりの人が、「蛇が出そう」というけれど、もちろん蛇はいる。それよりも今年の夏から秋にかけて、すだく虫の音が凄かった。空地のおかげで、窓からはいつも涼風が入る。それと共に虫の大合唱も入りこむ。虫というのは子供が小さい頃は、けっこう親としても関心を持たざるを得なかった。なにしろ長男は無類の虫好きだったので、学校の宿題にコオロギを一匹つかまえて行くノルマを、クラス全員分請け負ったことがあった。つまり彼はひとりだけで、ザルいっぱいのコオロギを意気ようようと学校に持参し、友だちへの約束を果たしたのだ。ただし先生はそんな事情をご存知なかったようである。夏休みの家族旅行にも、虫あみと虫かごは欠かせず、行先も虫のいそうな地を選んだものである。

で、結果は実に見事な昆虫標本が二箱。あっと驚くほど大きいカブト虫やクワガタを中心に、ミチオシエやウバタマ虫、カミキリ虫が揃っている。ウバタマでなく、青いほうのタマ虫はなかなかつかまえられず貴重な一匹であった。さて夏休みが終り、先生に提出すると「デパートで買ってくるんじゃないやせん」と叱られたそうで、あまり立派だったための悲劇である。最近はマニアの間でクワガタは一匹20万とも30万ともいう高値の由、とうてい縁のない話となってしまった。

ま夜中に何やら枕もとでガサゴソするのでスタンドをつけてみると、毒々しい色彩のアメリカザリガニがハサミを振りかざしているので悲鳴をあげたことなども思いだす。台所のバケツから脱出したのであった。

ヤモリもしばらく飼ったが、どうも気持のいい



ものではない。私の父は関西学院大学の教授だったが、その著書に『若き日のヘルン』というのがある。カパーにヤモリやムカデなど醜い生きものの絵が画かれているのが嫌で、私はほとんど読んでもいない。あとから知ったところによると、心やさしいヘルンは醜い姿のものをも等しく愛した人なので、その志をシンボライズしての装幀だったそうだ。

にもかかわらず私はやっぱり今でも蛇が怖いし、ムカデも虫も怖いのである。その私がこの夏は、ちょっと思うところあってキリギリスを飼ってみたくなった。

ちょうどお盆で帰省してきた長男に、キリギリスをつかまえてと頼むと、変な顔をするどころか実に嬉しそうに「まかせといて」と破顔一笑したのである。彼は早速スニーカーと麦わら帽子姿で出て行った。キリギリスなんて隣りの空き地に山ほどいると思っていたわりには、なかなか戻ってこない。やがて30分以上たった頃、やっと一匹のキリギリスを指でつまんで帰ってきた。汗みずくになっっている。せっかく今まで鳴いていても足音がするとピタリ鳴き止むうえに、葉や茎にいたキリギリスはポロリと落ちるのだそうで、草むらに落ちてまぎれてしまうともう無理なのだそうである。「もう子供のときみたいな根気がないなあ」という長男の顔はしかし、とても穏やかでいい表情をしていると私は思った。東京の商社マンとして、ふだんはずいぶんギスギスした生活をしているに違いないのだから、こんな妙な親の気まぐれも我田引水的に言えば功を奏したのかもしれないなかつた。

それはそうと素手でつかまえるのは無理だよといわれてしまった。私は虫かごを買っておくことだけ気を取られて、捕虫網について思い至らなかったのだ。虫かごを買うという発想が、先ず第一にどこで買ったらいいかかわからないために混乱してしまったのである。私の現在住んでいる学園前の街並みはすっかり整備されてしまつて、昔なつかしい荒物屋さんなんて姿を消しているのである。

私は友だちに何人か聞いてみて「ペットショップじゃあない？」なんて聞かされて吹きだしたりした。結局は文房具屋さん置いてあったのだけれど、興味がないうときの目にはいかに何も見えないものだということがよくわかって面白い。

さて、ちょうど頂きもののメロンがあつて賞味したばかり。早速その残りの皮を虫かごに入れてみると、抱きかかえるようにして夢中になって食べ始める。鋸のような動きをみせる口を移動させて我を忘れたかのように一心に食べるのである。自分か、かごの中にとらわれの身となつた不運を考えているようすなど少しもない。「あんまり深刻がられても困るしねえ」と息子。私もさすがキリギリスと感嘆したことである。ほんとに楽天的。

このキリギリス、私が電話で話したすといっしょに大声で鳴き始める。何も知らない人は一瞬息をのむ。いったい私はどんなあばら屋に住んでいるのかと気味悪く思うのに違いない。私自身は虫愛めずる姫君とか何とか思ったりして機嫌よく過しているのだが。

随想□私と神戸

# 八十の手習

金井

元彦

△元兵庫県知事▽



第38代兵庫県知事に当選（昭和37年）

私は美術館長になった記念に、美術館で普及事業の一つとして催している水彩教室に入れて貰って、一年間の講習を受けた。「六十の手習」という言葉があるが、正に「八十の手習」で前代未聞というべきものである。もともと絵心がないので、写生するのにどういう風に描いてよいか分らないので、見た通り描けといわれても恰好がとれない。端から描いていくと画用紙をはみ出してしまつて、予定の半分も描けない。また何を省略して何処を描けばよいかもよく分らない。しかし二度目になると全体を先に見当をつけて描き画用紙をはみ出さなくなった。恐らく何回か繰り返せばもっとうまくいくのであろうと思うが、要は矢張り繰返しやるのが大事で、如何に練習が大切かということ悟らせられた。

ゴルフを始めてから年数は随分経つが、一向に上達しないのは練習をしないからだ、ということもこれと同じことだ。練習場で球を打つということとはまことに面白くないので、最初の頃二、三回はやったが、それからは直ぐコースへ出ることに





▲メリケン波止場で写生（昭和59年）  
◀80の手習で描かれた水彩画

している。一つには、出来るだけ草臥れないようにするためでもある。ゴルフは非常にメンタルで、精神がしっかりしておればよいというが、それはある程度技術が進んでからいうことで、気持ちだけでは何ともならない。

しかし画の方は、形をとることは本当に難しいが、絵の具で色を塗り始めると何となく面白くなって次々に塗りたくなる。思いがけない素敵な色になったりして楽しいものだ。だが後から見ると、色は塗れば塗るだけ悪くなっている。触れない方が良かった場合が多い。教室の連中と一緒に道路で写生していると、知合の人が通りかかって「先生、今日は」といって暫く眺めて立ち去る。

メリケン波止場へ皆で写生に行ったことがあった。一番簡単なところをといひ積りで向いの黄色い倉庫を描いたが、一年の終りに作品展をすることになってこれを出した。美術館の人は之は入賞ものだといったが、それは、こんな平凡な所を写生する人がいないのと、世評とした色彩が独特で、とにかく非常に個性的であるとのことであった。家へ持って帰ってから、之を茶の間に掛けて置いたところ、東京から娘がやって来て、この幼稚園の子供が描いたような画がどうしてここに掛けているのかという質問であった。正直なところ「八十の手習」は「幼稚園の絵」に過ぎないのだった。



△故金井元彦氏の経歴紹介

明治36年岡山県玉島市生まれ。昭和2年東京帝国大学法学部卒業後、内務省に入省。同30年兵庫県副知事。37年兵庫県知事。46年参議院議員に。52年に再選、6年後任期満了。本年8月脳梗塞のため逝去、87歳。



□トランペット片手にブラジル一人歩き△35▽

## あこがれの ニュー・オルリンズ

絵と文 右近 雅夫 △在ブラジル・サンパウロ▽

ニュー・オルリンズの空港で飛行機から空港ターミナルに通じる廊下を出た途端 “Way down Yonder in New Orleans” のメロディが聞こえて来た。タキシードにシルクハットの可愛い黒人の女の子が手拍子を打ち、五人編成のジャズバンドを先導、その後から我々ツーリストがぞろぞろついて行った。行列は手荷物受渡所で解散したが、その時の興奮は一生忘れられない事だと思う。空港のタクシー乗場で、「パウロン・ストリート」の近くにあるオリビエ・ハウス迄行きたいのだが、「一寸首をかしげた案内嬢が、「そのホテルなら知っている」と云った運転手呼んでくれた。四十分程で車は Toulouse St. の古めかしい建物の前で止まった。僕はこのホテルをリザーヴしようと思って前日マイアミから電話をしたのだが応待に出た女の子にあいにく空部屋が無いので、と断わられた。僕は突差に、「大阪のデキシード・ジャズ・クラブの会報でオリビエ・ハウスに関する記事を読んだので」と云うと、「では親子三人一部屋なら」とOKしてくれた。入口から中に入ると応待に出て来た若い男に “Where are you from?” と尋ねられ、「サンパウロ、ブ

ラジル」と答えると、彼は急にニコニコして、「サンパウロに学生の頃、一年半程住んだ事があるんや」とスペイン語訛りのたどたどしいポルトガル語で喋り出した。Bobby と云うニック・ネームの此処の主人の息子で、家内のマリアはニュー・オルリンズ迄来てポルトガル語でお喋りができ大喜びだ。何でもボビーの話に依ると、その建物は十七世紀の初期に建てられ、農場の女主人が住んでいたのを彼の父が買って、二階建ての家屋だったのを三階建てのホテルに改造したのだうだ。

僕等は部屋にトランクを置くと、一刻も惜んで外へ出た。ホテルから五十米も行く到有名な Bourbon St. に出る。その日は Thanksgiving Day (感謝祭) の休日の後の土曜日だったのと、ニュー・オルリンズとアトランタのフットボール・チームのコンペティションが有ったのものごい人出だった。土産物店やクレオール料理のレストランに狭まれ、あちこちのライヴ・ハウスから未だ昼間だと云うのにバンド演奏が聞こえて来る。夜に入って、僕等は St. Peter 通りの角っこにある Royal Cafe で夕食をすませ、同じ通り



にある Preservation Hall にジャズを聞こうと思っ  
て行ったが、ものすごい行列なのであきらめ  
てホテルに帰った。

翌、日曜日の朝早く起きた僕はセント・ルイス大聖堂のある Jackson Square に行った。広場の周囲には画家がいっぱい坐り画を描いている。顔を真白に塗った若いカップルの道化師がパントマイムをやっているかと思うと、表の大通りを馭者兼ガイドの黒人が大声で説明し乍ら観光客を乗せた馬車が走って行く。Cafe Bagnet の入口にアルト・サククスを持った黒人が居たのでチップをやるとプレイバックに合せて "When the Saints go marching in" をアドリブし乍ら吹き出した。朝っばらからジャズを聞き、すっかり嬉しくなってしまった僕は、其処で Beignet (フランス風の四角いドーナツ) とカフェを注文、朝食を済ませた。昔、ビールの醸造所だった建物を



家内のマリアと。バックは Riverfront の Street Car. (ニューオーリンズにて)

ショッピング・センターに改装した、Jackson Brewery で土産物を買ひ外へ出ると、「外輪船の Natches がもうすぐ出発！」とアナウンスして居た。僕は六角堂の切符売場で一人 \$5.75 払ってあわててタラップを上った。家内のマリアも息子も大喜びである。汽笛と共に船は静かに岸壁を離れ、のどかなミシシッピ河を下り出した。マイクで沿岸の建物やプランテーションの歴史等を説明している。僕は息子のマサラズイニオと交替でビデオカメラで周囲の風景をとりまくった。一時間程経ってそろそろ退屈して来た頃、「船内でデキシラランド・ジャズの演奏が始まる」とアナウンスしたので僕はあわててデッキから船内に移動した。トランペット、トロンボーン、それにピアノとドラムの四人編成のバンドで "Somebody Stole my gal" を演奏して居た。小編成のグループだが、息の合ったプレイでじっくり一時間程の間奏はさせてくれた。演奏が終わると僕はステージの処へ行ってトランペッターの Charles Fardela と話をした。日本へも演奏で行った事があるらしく、僕がサンパウロでデキシーをやっているんだと云うと、話題がはずんで一べんに友達に成ってしまった。「午後は夕方迄 Mahogany Hall に出演してるから遊びに来たらどうや」と誘ってくれたので、僕は再会を約束して別れた。其の夜は St. Peter 通りの Gumbo Shop で夕食の後プレゼヴェーション・ホールに Dejan の Olympia Brass Band の演奏を聞きに行った。長い行列で待たされた後、狭い部屋につめ込まれ立った儘で坐る場所も無い。まあジャズの史跡の様な所だからしょうが無いと思ったが、それでも雰囲気だけは充分味わう事が出来た。



## ★新機軸「LINUX」誕生

兵庫トヨタが神戸市北区藤原台に建設を進めていた西日本最大規模のショールーム「LINUX」(リノス)が10月12日にオープンする。

リノスはクルマの店頭集客型販売時代に対応したセーラーズ拠点機能を持ち、ユーザーのライフスタイル、志向の多様化の進む中で、生活者の持つ感性(オフタイムマインド)をアプロッチの切り口に、兵庫トヨタが「オフタイムスタイリス」トという立場で、新しいユーザーコミュニケーションを展開していく新業態店舗。敷地面積約1万7千平方メートル、延床面積約6千7百平方メートルの広大な敷地内には四輪駆動車を試乗できるよう、オフロー

ドコースも設置している。メイン施設となるショールームにはセルシオ、クラウン、ソアラをはじめ、ランドクルーザー、エステイマなど、同社の取り扱う主力車を常時展示。その数は40台にも及ぶ大型スペースとなっている。



完成予想図

## \*真珠ビジネスの創造拠点パールシティ

株式会社ヒラコ地所が、かねてよりポートアイランド・ファッシュシオンタウン内に建設を進めていた「パールシティ」が11月14日に竣工する事になった。



完成予想図

パールシティは地上14階地下1階、延床面積約1万8千平方メートル。宝石ギヤラリースペース、エキジビジョンホール、ショールーム、オフイス、ホテルなどを備えた日本初の本格的な真珠センター。250社ともいわれる真珠の養殖、加工、貿易業者が集まり、国内の80%の素材としての真珠を取り扱う一大集散地を形成している神戸から新しい真珠ビジネスの創造拠点としてアピールしていく。

## ▼元町「MEW」誕生

元町東地域協議会が、5月16日から6月10日までの間、募集していた元町東地域の愛称が決まった。

2千通余りの応募の中から選ばれたのは、「MEW」(MOTOMACHI EAST WING)。名付け親は、神戸市須磨区に住まいの松井久子さん。

大丸神戸店、元町一番街、元町三番街、大丸前商店街、トア・ロード商店街、元町穴門商店街、南京町商店街、三越神戸店を参加団体に、一層、魅力的な街づくり、店づくりが期待できそう。

MEW  
MOTOMACHI EAST WING

神戸・元町

シンボルマーク

## ★KOBEOFFISレディ★

鎌田 未来さん(26)

〈兵庫貨物運輸作業株式会社勤務〉



兵庫貨物運輸作業株式会社で経理等の仕事をしている鎌田未来さん。「引越しの見積もり、問い合わせの電話など、簡単そうに結構対応が大変なんですよ」と、微笑む。どうしても男社会というイメージが強いので、イメージアップを図るため、彼女の提案でユニホームを新調した。休日には、ゴルフ、スペイン語、フラメンコとお稽古事にも忙しい、明るく活動的なお嬢さんだ。獅子座のB型、神戸市在住。



《第6回／三味線音楽シリーズ》

・解説と演奏

# 道行・心中

恋と死の美学

'91~'92

博物館

# 邦楽サロン

入場料／前売 900円、当日売 1,000円、8回通し券 6,000円

会場／神戸市立博物館 地階ホール

ミュージアムカード会員 800円、いずれも博物館「常設展」入館料込み

各日開場／1時半、開演／2時

前売場所／さんちかプレイガイド、神戸文化ホール、神戸職域文化連盟、神戸市立博物館

第8回	第7回	第6回	第5回	第4回	第3回	第2回	第1回
<p>お義太夫</p> <p>2月8日(土)</p> <p>豊竹嶋大夫</p> <p>梅川 忠兵衛</p> <p>浄瑠璃 三味線</p> <p>竹本 鶴澤</p> <p>千歳 燕二</p> <p>大夫 郎</p>  	<p>地歌</p> <p>1月18日(土)</p> <p>佐野連箕</p> <p>越後獅子</p> <p>菊聖重</p> <p>三精優</p> <p>子</p>  	<p>大和</p> <p>1月11日(土)</p> <p>谷村陽介</p> <p>恋の管笠</p> <p>大和久</p> <p>他</p>  	<p>常磐津</p> <p>12月21日(土)</p> <p>常磐津小欣司</p> <p>道行三度笠(上)梅川</p> <p>常磐津綱男</p>  	<p>長唄</p> <p>12月7日(土)</p> <p>佐野連箕</p> <p>三勝道行</p> <p>三味線</p> <p>勝之弥</p>  	<p>清元</p> <p>11月30日(土)</p> <p>谷村陽介</p> <p>北州</p> <p>清元延</p> <p>他</p>  	<p>須磨琴</p> <p>11月9日(土)</p> <p>小池義人</p> <p>平成</p> <p>三浦美代子</p> <p>他</p>  	<p>新内</p> <p>10月19日(土)</p> <p>谷村陽介</p> <p>明月鳥</p> <p>醉月蝶</p> <p>富士松</p> <p>若瀬太夫</p>  

主催 ■ 神戸市立博物館・神戸市教育委員会・邦楽鑑賞

兵庫県連絡会・神戸市民文化振興財団

後援 ■ 神戸新聞社・サンテレビジョン・ラジオ関西・

神戸芸術文化会談・月刊神戸っ子

## 神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24

☎ (078) 391-0035

# THE KOBE FASHION



〈特集〉ザ・コウベファッション

## (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る21世紀のファッション都市論

## (2) 神戸ファッション情報

世界のファッション都市への挑戦

- 1 コウベファッションマート
- 2 ジャンニ・ヴェルサーチ衣裳文化展
- 3 神戸クリエイション'91 (ニュークリエイター)
- 4 KFFパールフェア'91
- 5 コウベファッションパーティ



# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論



水野 正夫

△ファッションデザイナー

フランス人の友達が言った。  
楽しいけど、日本の服はサーカスみたいだ  
ね、賑やか過ぎる。

日本の繁栄を妬む言葉と受け取りたいが、  
それだけでなしに、やはりそれには当を得た  
指摘が充分含まれている。

ファッション、とは流行、そして流れて行  
くもの、と解釈されるが、その何時も目まぐ  
るしく流れて行くものだけでは困る。

それ以前に、着るもの、としての確かな、  
存在を認めてやらないと。

言われてみれば日本の服は、流行性だけで  
着られているように見える。

もっと人間の着るものとして、幸せな服と  
は、人間の尊厳を傷つけない服とは、を考え  
るときが来たようだ。

その服をもういちど丁寧につくってゆける  
のはここ神戸、と私はひそかに期待している。

人間の着るものは、少なくとも人間を犯さ  
ないもの。神戸はそれをしっかり身につけて  
いる街だと思ふ。



大内 順子

△ファッション評論家

何をにおいても先ず評価したいのは、神戸の  
活発さである。

文字通り、官民一体となり、きめのこまか  
いさまざまな活動ぶりには、ただ讃辞を捧げ  
るものである。

この上、希望するとなれば、更にもう一步、  
「神戸ならではの」絶対の特色を持つ事が一  
つ。二つ目は他の地域との連携という点であ  
る。

「神戸ならではの特色」については、既に  
かなり強く漂っているのは事実。更に押し進  
めて欲しい。例えばデザイン・コンクールな  
ど他地域で山ほどある事業を行うのではな  
く、技術者に光を当てる催事にするなど、と  
もかく「特別」であって欲しい。

他地域との連携にもいろいろ考えられる  
が、やがて設立されるファッション・ミュー  
ジウムやライブラリーなどをはじめ、催事、  
情報、知的財産など、なるべく独占するのでは  
なく他と交換、共有して欲しいものである。



秦 砂丘子

△ファッションデザイナー

神戸は、大変優しい街だ。人も優しい。そ  
れは、海と山との間の風光明媚で文化の歴史  
のある豊かで狭い土地らしいおだやかさであ  
る。ある時、ポートアイランドがまだ充分完  
成していない頃、ホテルの前からダアツと  
走るアスファルトの道が、そのまま海を越え  
山の麓にまで達するような広大な強さとスリ  
リングな新しさをみた。これは、N・Yにも  
通じる環境アートの世界であった。

さて、しかし、神戸のもつ優しさと甘い空

# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論

THE  
KOBE  
FASHION

気は、すぐその厳しさを、バラと香水に変えてしまふ。深くは知らないが、神戸のファッションにも、これと似たものがある。文化というものは、ある意味での「こだわり」だが、それを優雅さや装飾過多のみにむけてしまふと沈黙化現象となる。太陽が照り、海に向って開かれた若々しい坂道の街で、この傾向は似つかわしくない。私が神戸に求めるところは、その特異な環境がもつパン文化性を深化させながら、いつも新しい今日性をモダンなシンプリシティのなかに表現することだと思ふ。



ルネ・ベレ

〈在大阪・神戸フランス総領事〉

十月一日に正式にオープンする、六甲アイランドの神戸ファッションマートは、日本でも屈指の巨大な卸売りセンターである。ここには、モード・コレクションのための諸施設、及び各種催物の開催が可能な大ホールが整備され、内外の二百社余りのモード関係企業の事務所の開設が予定されている。

このようなファッションセンターが神戸に建設されたことは、関西の繊維産業の伝統の延長上に位置づけられよう。それはまた経済活動の東京一極集中を是正し、多極分散推進のための経済拠点を提供しようとする近畿圏の決意と、神戸の町の活力を端的に示すものでもある。神戸ファッションマートは、国内のファッション関係者のみならず、世界各地からの輸出業者やバイヤーたちを多く集め、

現在進行中のその他の大型プロジェクトとともに、地元経済の再活性化に寄与するに違いない。神戸ファッションマートの大成を祈る。



中田 幸子

〈神戸アタマント代表取締役社長〉

神戸の「ファッション都市宣言」は経済的にも神戸をファッション産業が支えることで立証されている。

神戸市開発局と組んでのポートアイランド、六甲アイランド、そしてハーバーランド開発と他の都市に見えない位のすさまじい地域開発が推進されている。すごいひと言で評価される。しかし、これらの開発事業を尻目に、旧繁華街は今ひとつ伸び悩んでいる。ただ一点、神戸大丸の旧居留地政策はその中でも、ひとときわふんばりに目を引く街づくりで、古き良き神戸の復活に力を注いでいるが徹底した市民へのアピールと広がりにはばつきが見えるセンター街、さんちか、トアロード、元町といったストリートは、何らかの手直しはされているが、その魅力度は下がっている、又、コンセプトがない。

神戸市のプランは地方都市としては経済効果としてよくやっていると評価されているが大局的に、インターナショナルに見て、結局、都市の「シティ・アイデンティティ」づくりにはブレキがかかっている。いや、視点を置いていいのかもきれない。





# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論

が実現すればその波及効果の程は測り知れない。たちまち神戸は国際的アートフルファッション都市へと飛躍し、世代を超えて颯爽悠々繁榮しつづける。

国内を見渡してこんな事の可能な街、それにふさわしい環境、土壌に恵まれた街、となればその白羽の矢は神戸に立つ。

私の試算では三百億円の投資で実現できる。その為の格好の場所もある。それは今建設中の第二期ポートアイランドファッションエリア予定地、つまり現ファッションタウンと地つづきの場所である。

この街へは間違いなく神戸・国内・世界のダイヤと輝く大小企業のデザインオフィス、ベンチャービジネス、個人アーチスト、デザイナーのアトリエが競って集合する。こういった理想が実現したときには、この街を「インターナショナルデザインシティ」と命名したい。



上島 達司  
〈UCC上島珈琲株式会社代表取締役社長〉

生活文化産業を振興する役目の神戸ファッション協会は、生活文化全体に目配りをお願いしたい。

ファッション都市として第一に重要なことは、観光に重点を置き、国の内外から人々を集める諸方策を考えたい。もし、もてなしなどが悪いと、二度と神戸にやってくる来ないし、口コミでイメージダウンする。

まちはキレイ、食べ物はい、人々はイキ

イキして明るい、ホスピタリティがある。そんなまちを求めて人々はやってくるだろう。

優れた観光地には必ずといってよい、優れたグルメがあるから、ファッション都市とは優れた観光都市でなければならぬ。観光とは、市民の生活全般に関わるから、生活文化産業を振興するファッション協会は、市民に新しいライフスタイルを提案し、ファッション都市を形成していかなければならないものと考えらる。

観光立国ならぬ、観光立市である。



松宮 隆男  
〈モロゾフファッション協会代表取締役社長〉

金銭至上主義とエゴが考え方の基本である「泡踊り社会」のコンセプトからすっきり抜け出す事はなかなか難しい。「儲かる都市にしたい」いくらきれいごとを言っても、みんなその夢を追って議論し結果して行動しようとする。企業も都市も経済性を失っては存在価値がない。これまた明白な事実である。「豊かな街」は多くの他の街から多くの人々が楽しみに集まってきて、その街で素敵な満足をして帰って行く、結果として街が潤うことになり「儲かる都市」になる。

今社会では「儲かる」コトを非難しているのではなく「儲け方」について非難が集中している。つまり今までの金銭至上主義の「ひとはこれを経済性と言う」思考、パターンから人間回復の優しさの論理」に転換する必要がある。

もう一度「ファッション都市」の概念を新



# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論

THE  
KOBE  
FASHION

- しい物指しで再構築する必要があると思う。
- ① 清潔、健康で世界に通用する街
  - ② 色彩と形の綺麗な街
  - ③ 昔のいい伝統が残っている街
  - ④ 人々の笑顔のいい街
  - ⑤ 素敵な生活の見つかる街



篠原 順子  
△ライフデザイナー

ファッションを生活文化としてとらえ、文化度を計るバロメーターだと思う。生活全般にかかわる生き方の質の重さを求める文化的生活をファッションナブルと言いたい。人も街も自然も美しく絵になる全体の雰囲気ニュアンス、(このニュアンスが大切)が有って、独自の神戸らしさが生れる。そんな自然な姿が理想的です。

文化施設の急増も「ハコ」(ハード)先行型ではなく、コンセプト、ソフト重視、中味の問題を大切に、知名度のみが最優先ではなく質や内容を基準にしてほしい。そして又、創作、制作、生産者の育成、アトリエ、スタジオロフト等を設置し芸術活動等の育成や支援等々、県や市、国や企業の役わりとして大きくかかわってほしい。しかしその方法や人的ネットワークも、文化的生活、エコロジカルな視点、豊かな自然環境そしてオシャレを基準に、考えてほしいものです。

そもうひとつ大切なことは、文化を体験すると言うこと、一流のアーティストやデザイナーの公演やショー展覧会、又それに伴

うプラスアルファなる人々の交流、集合、そしてそこから生れる感動やエキサイティングな雰囲気、これ等、プラスアルファなることが多くの場合、ファッションを育てる大きな要素である。パリやミラノの展示会、ボンビドーセンターの展覧会やイベント、集まる各国の人達の交流、その熱気、カフェに集う人達、街の表情、人々の生活……それ等が一体となってかもし出される雰囲気こそ都市ファッションです。

イマジネーション、クリエイションが育つ背景がまず存在すること、街にその雰囲気があること、が最も大切な事だと思う。



新谷 瑠紀  
△彫刻家

古代ギリシャ時代、ペリクレスの命を受けてアテネのパルテノンを造営したフィディアスは、建築家であり彫刻家であった。彼に与って決して建築物や街の景観の装飾物・添え物ではなかった。アゴラ、フォロ、ピアツツア(広場)を核にして出来た街が民衆の生活の場であるだけでなく、コミュニケーションの集約された空間として繁栄してきたように、彫刻の設置された都市空間・環境は、人々と快適なる対話を保ちつつ、調和のある美的意識を醸し出したのである。

彫刻は実に多種多様である。あらためて彫刻の特性を見据え、都市景観への積極的な寄与の仕方、また美術品としての彫刻のある街づくりをどう展開してゆかについて、熟考

# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論

THE  
KOBE  
FASHION

してみるのは意義のあることだと思ふ。同じことが、ファッションと街の間にも言えそうである。やはりここにも、したたかな関係が存在しているのではないだろうか。

ローマは一日にして成らず——ファッション都市神戸もまた同様である。蒔いた種を根気よく育て、開花させ、結実させるには、まづ人づくりと肥沃な土壌づくり、それに長い年月の芸術の蓄積が大切だろう。幸い今日の神戸は花咲翁やルネッサンス期のメデイチに相当する人材には恵まれている。どしどし肥料を投資して土壌づくりを怠らなければ、官民一体となった美的意識の高揚により、香り高いファッションの花が開花し、いつまでも咲き競っていくものと思われる。



諸岡 博熊

▲UCCコーヒー博物館館長▼

かつて神戸の産業が鉄鋼造船に傾いていたとき、砂野仁神戸商工会議所会頭は「ファッション都市」を宣言された。今日、神戸でファッションが栄え、協会まで誕生するとは、まことに感無量である。神戸らしきリーダーの出現であつたと思ふ。

二十一世紀に向かって神戸の躍進を期待されるときこそ、このような先を洞察したリーダーの出現が望まれる。湾岸戦争で経験したように一國平和主義では済まされない。常に国際社会の動向を見、国内の変化に対応し、神戸を日本一の文化都市にするために待望される。

ファッション生産都市も必要だが、ファッション消費都市を実現してほしい。ミュージアム感覚あふれる消費の場をまちの隅々に演出し、内外から多数の人々を神戸に集めることである。ハイカラ神戸は、かつて居住する外国人のライフスタイルから教えられた。これからは、シテイのミュージアム化を図り、新しいライフスタイルを創り出すべきである。



村上 和子

▲ジャーナリスト▼

街にとって「人」は、人材というより財産の「人財」。神戸のファッション都市の発展も、いかにバラエティに富んだ、有能な「人財」をもつかにかかっている。

街が、夢をもち「自分の活躍の場こそ神戸」とやってくる、才能あるクリエイターの宝庫というだけでなく、キャリアのある人から新人にいたるまで、そんな彼らの創り出すものを、神戸ファッションの最新情報として発信する、優秀なジャーナリストが必要。

残念ながら神戸には、片手間記者はいてもファッション専門のジャーナリストがほとんどいない。情報はインパクトをもって受け止められるように、的確に発信しなければ、イキタものにならない。

つまり、ファッション都市の発展は、各分野での充実したファッション活動とともに、それらを伝達する語りべやスポークスマンが、数多く集まり、活躍するにかかっている。



# (1) ファッション都市神戸への試論

16名のオピニオンリーダーが語る  
21世紀のファッション都市論

THE  
KOBE  
FASHION

マスコミを通じ、神戸から発信される情報のひとつひとつが、いかにユニークで鮮度と魅力にあふれたものであるか。私たちの責務は大きい。



中村 一夫

〈DNAコーポレーション〉  
〈デザインディレクター〉

KFA、KFC、KFD、KFF、KFG  
……。このアルファベット三文字は神戸ファッション○○の略称だが、これを全て挙げられる方はおられないだろう？

それくらい神戸にはKFOが山とある。これは、その名称のグループに属されている(多数の)方々が長期にわたりファッション都市「コウベ」を盛り上げてこられた証しである。

神戸は二〇年前にファッション都市宣言をし、その後他都市も同様の宣言をした様だが、おそらく前述例にもみられる程継続し、努力している都市はないだろうと察する。

故に、神戸のKFOとは「都市の財産」なのだ!!

そして、今年五月にはKFO「神戸ファッション協会」が生まれた。この新たに追加されたKFOはこれまでの個々のKFOを生活文化として一括し得るものとして期待している。

又、それは今までの

一つの業界だけの……

一地方「神戸」だけの……

から、業界的にも地域的にも「際」をなくす

前進的な役割を担って欲しい。  
ファッション都市「コウベ」をFashion City「KOBÉ」へと引っ張って欲しい。

KFOの集大成として……。



西屋敷 俊裕

〈ビブティ・ジャパン㈱〉  
〈プロデュース〉

神戸は、官民一体となった努力の末、我国のファッションシーンをリードする強力なメーカーを幾つも擁する、全国でも有数のファッション都市となりました。しかしながら、特に東京以北におきましては、神戸の街、メーカー及び神戸市のファッション産業への理解度は、我々が思っているほどではありません。つまり、神戸のファッション都市としての一般消費者への認知度は、全国レベルには達していないということです。これは、全国ネットのキーTV局や出版社のほとんどが東京に一極集中していることに起因するものです。しかし、ファッションビジネスにおいて、プレス機能による情報の発信はますます重要度を増すことでしょう。神戸を中心とした関西のファッションを全国的に認知させるためのしくみ作りが、今後大きな課題になると思われます。ポर्टアイランドのファッションタウン、神戸ファッションマートのオープンと壮大なスケールのプロジェクトが続く中、ハードばかりではなくファッションのソフト化、情報化をどのように進めていくのかを、今後期待を込めて注目しています。